

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

鳳 中学校区	校番 36	福山市立伊勢丘小学校
最終更新日		2021年(令和3年)2月22日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> • 子供たちの心の育成の目標と取組がとてよい。 • 子供たちに必要な課題を取り上げ、それにとまった授業内容を行っていただいていると感じる。 • 町づくりの視点から、地域や保護者とつながりをさらに強めてほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> • 表現する力について、「書くこと」は高まっているが、他者の意見を聞いて「自分の考えを話すこと」に課題がある。 • 学校生活における基本的な生活習慣は、大半の児童・生徒が身に付いている。 • 体力づくりについて、課題を焦点化し継続的に取り組みをしている。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>思考力・表現力</p>	<p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる。 ・論理的に考え、他者の考えを尊重しつつ、自らの意見を主張することができる。 ・他者や集団のために、自ら考え主体的に行動できる。</p>	<p>中学校区として統一した取組等</p> <p>論理的に考え、判断し、他者の考えを尊重しつつ、自らの考えを表現する力を育てる。</p>
---	--	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>未来を拓くリーダー性を育てる学校</p>
<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び人間性豊かな子を育てる</p>

<p>現 状</p> <p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> • 全国学力・学習状況調査において、国語(+6)・算数(+4)ともに県平均を上回っている。多くの児童が、国語や算数の学習内容が大切であると感じているが、「学習が好き」という児童は8割弱であった。学習したことを活用する力、自分で計画を立て学習を進める力の育成が必要である。 • 縦割りの掃除等を通して「あこがれのリーダー」を育てる取組を行い、自信がついてきている。今後、変化や困難、失敗を「より良くするチャンス」と捉え、児童が主体的・創造的に活動し、粘り強く取り組む経験のできる場を設定する必要があると考える。 • 走る力を高める取組を工夫し、体力向上に努めた。児童が運動の楽しさを実感し、自分に合った運動の仕方を考えるようさらに取り組む必要がある。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> • 授業では、児童同士の学び合いを通して「学びが深まった」と感じる児童は83%、「学びが面白い」という児童は86%となった。 • 学びづくり案(授業の計画書)を活用し、「子供主体の学びとは」と問い直すことで、教師のかかわりを改善しつつある。児童の興味・関心や思考の流れに沿って学習を進める必要がある。 • 児童が主体的に学び、学習したことを活用することができるようカリキュラムを工夫・改善する必要がある。今後さらに、児童が自ら計画し学習を進めるよう取り組む。

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	生きて働く 知識・技能	思考力・表現力	他者と関わる力	全力でやりぬく力
めざす子ども像	12年 学んだことを、自分の知識や経験とつなぎ理解する。	「なぜ?」「もっと知りたい?」という思いを持ち、考えを進んで話す。	友達や自分の良さを見付け、一緒に活動する。	全力で取り組み、最後までやりぬく。
	34年 学んだことを自分の知識や経験とつないで理解し、活用する。	自ら疑問を持つて考え、伝え合うことで、考えをつなぎ、深める。	思いや考えを認め合い、協力して活動する。	失敗してもあきらめず取り組み、最後までやりぬく。
	56年 学んだことを自分の知識や経験とつないで理解し、学習場面や生活場面で活用する。	自ら疑問を持ち、必要な情報を関連付けて考え、判断し、伝え合うことで学びをつなぎ、深める。	相手の立場や考えを理解し、個性を発揮しながら協力して活動する。	困難なことや失敗にも、あきらめず何度でも挑戦し、やりぬく。

研究	教科等	算数科 外国語活動
	主題・内容等	主体的に学びを深め、挑戦し続ける子どもの育成 ～ 学びをつなぐカリキュラムデザインを通して～ (子供たちの経験から得た知識が、「なぜ?」と考え、追究する中で、新たな知識とつながり、活用できるものになるよう工夫した学習計画を活用します。)
めざす授業の姿	児童の「なぜ?」「やってみよう」から始まり、児童が自分に合った学び方で学び、他者と関わりながら熱中して探究し続ける授業	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立伊勢丘学校

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)																																					
							□指標に係る 取組状況	加○達成 評価評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	加○達成 評価評価	総合 評価	改善方策																																		
1	主体的に 学 び 続 げ、 創 造 的 に 活 動 す る 児 童 の 育 成	★	新規	<p>児童の「なぜ?」「やってみよう?」「やってみよう?」から始まり、児童が自分に合ったやり方で学んだり、他者と関わりながら熱中して活動したり、何度でも挑戦したりすることのできるカリキュラムをデザインする。</p> <p>【総合評価指標】</p> <p>①「授業で考えることが面白い」90%以上</p> <p>②⑤「学びの伸びを把握する調査」の結果</p> <p>③自己効力感を持った児童85%以上</p> <p>④校区体カテストで自己記録を伸ばした児童80%以上</p>	①「なぜ?」「やってみよう?」から始まるカリキュラムデザインを作成・活用する。	◆学期に1回、カリキュラムデザインを活用した学びの動画を交流・検証実施	<p>□児童が主体的に学ぶ授業の動画を交流し、各学年の取り組み状況を共有した。今後は、児童の実態に応じて、カリキュラムを更新していくよう、研修を進める必要がある。</p>	4	3	<p>○カリキュラムデザインを活用した実践例を交流する。</p> <p>○児童主体の学びになるようカリキュラムについて考える研修を行う。</p>	<p>□カリキュラムを意識した授業の実践交流を行い、系統性や教科の見方・考え方について考えることができた。今後は、認知の視点にたち、教科や経験と繋げながら児童の「分かる」が増える授業を行う必要がある。</p> <p>◎授業で考えることがおもしろいと答えた児童は、86%であった。</p>	4	3	4	<p>○今年度の実践から、児童の学びの深化に向けてカリキュラムの見直しを行う。</p> <p>○児童の経験や既習の知識と新しい知識がつながる授業展開ができるよう、授業研修を積み重ねていく。</p>																																
					②「やってみようカード」(一人一人が家庭学習を自分で計画し、進めるカード)の活用や、個に応じた学びの時間(ぐんぐんタイム)を設定する。	◆「自分で計画して学習を進めることができた」という児童80%以上	<p>□学年に応じた実態に合わせて取り組むことができる。保護者と意識共有ができていない部分がある。</p> <table border="1"> <tr><td>1年</td><td>85%</td></tr> <tr><td>2年</td><td>86%</td></tr> <tr><td>3年</td><td>75%</td></tr> <tr><td>4年</td><td>76%</td></tr> <tr><td>5年</td><td>80%</td></tr> <tr><td>6年</td><td>83%</td></tr> <tr><td>特支</td><td>81%</td></tr> <tr><td>全体</td><td>80%</td></tr> </table>	1年	85%	2年	86%	3年	75%	4年	76%	5年	80%	6年	83%	特支	81%	全体	80%	4	3	<p>○学年や学級でチャレンジ学習の内容など、意図やがんばりを伝える。</p> <p>○宿題に取り生んだ成果を確かめることができる場を設ける。</p>	<p>□改善しながら取り組むことができた。目的を児童・保護者と共有する必要がある。</p> <table border="1"> <tr><td>1年</td><td>90%</td></tr> <tr><td>2年</td><td>83%</td></tr> <tr><td>3年</td><td>77%</td></tr> <tr><td>4年</td><td>82%</td></tr> <tr><td>5年</td><td>74%</td></tr> <tr><td>6年</td><td>81%</td></tr> <tr><td>特支</td><td>73%</td></tr> <tr><td>全体</td><td>80%</td></tr> </table>	1年	90%	2年	83%	3年	77%	4年	82%	5年	74%	6年	81%	特支	73%	全体	80%	4	3	4	<p>○学年で取り組み状況に違いがあるので、カードを見合って研修し、活用法や目的を共有する。</p> <p>○確かめテストを実施し、児童が達成感を得たり学び方を振り返ったりできるようにする。</p>
					1年	85%																																									
2年	86%																																														
3年	75%																																														
4年	76%																																														
5年	80%																																														
6年	83%																																														
特支	81%																																														
全体	80%																																														
1年	90%																																														
2年	83%																																														
3年	77%																																														
4年	82%																																														
5年	74%																																														
6年	81%																																														
特支	73%																																														
全体	80%																																														
③児童の「やってみよう?」を軸に、児童が企画・運営する活動を実施する。(みんなのチャレンジ)	◆「みんなのチャレンジ」に挑戦することができた児童70%以上	<p>□自分達の「やってみよう?」や「より良い」という気持ちを行動に移すことができていく。チャレンジ内容の周知</p>	3	3	<p>○学年間でのばらつきを解消するため、掲示や通信等を活用し、周知する。</p>	<p>□チャレンジバッチの授与により、意欲を持たせることができた。</p> <p>□委員会では、子ども達の考えをもとに活動を計画し、進めることができた。また、委員長会で各委</p>	3	4	4	<p>○児童の良い行動を担任が見つけ、その都度評価していく。</p> <p>○委員長会を定期的に行う。</p>																																					

				をし、広げていく必要がある。			<p>○月に1度、各学級より、推薦児童を募り、評価する。</p> <table border="1"> <tr><td>1年</td><td>82%</td></tr> <tr><td>2年</td><td>84%</td></tr> <tr><td>3年</td><td>72%</td></tr> <tr><td>4年</td><td>75%</td></tr> <tr><td>5年</td><td>75%</td></tr> <tr><td>6年</td><td>79%</td></tr> <tr><td>特支</td><td>75%</td></tr> <tr><td>全体</td><td>77%</td></tr> </table>	1年	82%	2年	84%	3年	72%	4年	75%	5年	75%	6年	79%	特支	75%	全体	77%			<p>員会の取り組みを共有することで、新しい活動を考えるきっかけになった。</p> <table border="1"> <tr><td>1年</td><td>87%</td></tr> <tr><td>2年</td><td>76%</td></tr> <tr><td>3年</td><td>72%</td></tr> <tr><td>4年</td><td>86%</td></tr> <tr><td>5年</td><td>74%</td></tr> <tr><td>6年</td><td>80%</td></tr> <tr><td>特支</td><td>86%</td></tr> <tr><td>全体</td><td>83%</td></tr> </table>	1年	87%	2年	76%	3年	72%	4年	86%	5年	74%	6年	80%	特支	86%	全体	83%			○やるべきことをやりきることも大切なこと伝えていく。
1年	82%																																												
2年	84%																																												
3年	72%																																												
4年	75%																																												
5年	75%																																												
6年	79%																																												
特支	75%																																												
全体	77%																																												
1年	87%																																												
2年	76%																																												
3年	72%																																												
4年	86%																																												
5年	74%																																												
6年	80%																																												
特支	86%																																												
全体	83%																																												
	④授業の中で学習カードを活用したり、運動遊びの紹介をしたりして、自分に合った運動を選んで体力向上に取り組む場を設定する。	◆「運動が楽しい」という児童85%以上	<p>□「運動が楽しい」という児童は87%であった。密をさける運動遊びの提案を体育委員の児童から全校へ紹介することができた。しかし、学習カードを活用したり、自分にあった運動を選んで行う場を設定したりするなどの取り組みの提案ができていなかった。</p>	4	3	<p>○学習カードや取り組みの提案を行う。</p> <p>○毎日、家での運動をする機会を設けるため、体力アップの一覧を活用していく。</p>	<p>□「運動が楽しい」という児童は89%であった。遊びの提案や体力アップのためのチャレンジ運動の取組を行った。</p> <p>□伊勢リニック(運動会)を実施し、出場種目を自分で選んで行う場の設定ができた。</p> <p>◎校区体カテストの自己記録を伸ばした児童は、74%であった。</p>	3	3	3	○感染症対策を行いながら、体力向上に向けてできる行事・活動を見直し、実施していく。																																		
	⑤「学びファイル」(学習の足跡を残し、教師だけでなく子供自身が自分の学びを振り返るファイル)を活用し、一人一人の伸びや成長の見える評価を行う。	◆「学びファイル」の活用により、自己の伸びや成長に気付いた児童80%以上	<p>□児童は、喜んで学習物を綴じている。学びファイルのねらいを学校と保護者とで確認する必要がある。</p> <table border="1"> <tr><td>1年</td><td>82%</td></tr> <tr><td>2年</td><td>78%</td></tr> <tr><td>3年</td><td>75%</td></tr> <tr><td>4年</td><td>75%</td></tr> <tr><td>5年</td><td>75%</td></tr> <tr><td>6年</td><td>76%</td></tr> <tr><td>特支</td><td>83%</td></tr> <tr><td>全体</td><td>77%</td></tr> </table>	1年	82%	2年	78%	3年	75%	4年	75%	5年	75%	6年	76%	特支	83%	全体	77%	3	3	<p>○友達と学びファイルを交流し、良さを伝え合う場を設ける。</p> <p>○学期途中に家庭に持ち帰り、保護者に評価の声掛けをもらう。</p> <p>○教材研究や授業づくりと学びファイルをつなげる。</p>	<p>□友達との相互評価や学期途中で保護者に見てもらう機会を設けた。今後、児童が目的をもって綴り、学びを振り返ったり成長に気付いたりするような工夫が必要である。</p> <table border="1"> <tr><td>1年</td><td>83%</td></tr> <tr><td>2年</td><td>85%</td></tr> <tr><td>3年</td><td>71%</td></tr> <tr><td>4年</td><td>79%</td></tr> <tr><td>5年</td><td>83%</td></tr> <tr><td>6年</td><td>80%</td></tr> <tr><td>特支</td><td>87%</td></tr> <tr><td>全体</td><td>81%</td></tr> </table>	1年	83%	2年	85%	3年	71%	4年	79%	5年	83%	6年	80%	特支	87%	全体	81%	4	3	3	○各教科の見方・考え方を意識し、児童が目標を立てたり振り返ったり、自分の成長が感じられるファイルとする。		
1年	82%																																												
2年	78%																																												
3年	75%																																												
4年	75%																																												
5年	75%																																												
6年	76%																																												
特支	83%																																												
全体	77%																																												
1年	83%																																												
2年	85%																																												
3年	71%																																												
4年	79%																																												
5年	83%																																												
6年	80%																																												
特支	87%																																												
全体	81%																																												

1	子供、保護者・地域、教職員の元気と笑顔の実現	新規	家庭・社会と連携するとともに、教職員が子供と向き合う時間を確保することで、状況が変化しても、子供たちの学びが止まらない状況を確認する。 【総合評価指標】 ①保護者・地域、子供の満足度90%以上 ②教職員のやりがい・充実感100%	①HP やメール配信、Google、通信を積極的に活用し、情報を配信する。	◆子供たちの学びの様子を具体的に家庭・地域に伝える発信を月1回以上	□学年学級通信は、配布するとともに Google で配信して情報発信することができた。	4 3	○今後も、通信を中心に Google を活用して情報発信する。 ○学校の取組みの意図が伝わるようにする。	□子供たちの学びの様子を具体的に家庭・地域に伝える発信を月1回以上行った。	4 3 4	○写真や動画を活用し、子どもたちの様子がより伝わるようにする。
			②変化を「より良くするチャンス」と捉え、多様なメンバーでプチミーティングをする等の場を設定する。そこで、多様なアイデアを出し合い、工夫して楽しく、新たな教育活動を創るとともに、職務の効率化を図る。	◆教職員意識調査 ・授業づくりを行う時間確保 85%以上 ・時間外勤務時間が45時間を超える教職員0人	□夏季休業中に学年・分掌の枠を超えたグループでミーティングや研修を行ったことで、新たなアイデアが広がった。 ・45時間を超える教職員0%	4 3	○課題に応じたグループ編制での話し合いの場を設定し、効率的な業務に向けて、改善を図る。	□各部を保護者アンケートの課題をもとにしたプロジェクトチームに再編し、改善策を話し合った。 ◎教職員のやりがい100%	4 4 4	○取り組む内容によって最適なチーム構成により、様々な角度からアイデアを出し合いながら、新たな取り組みを考える。	

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。